

横浜市立東野中学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度			共通取組 重点取組	平成26年度			共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学 力	教科相談活動の充実と長期休業中の学習活動を充実させる。	基礎学力の定着を図るための授業改善と放課後や長期休業中の学習活動を継続していく。	A ⓐ C D	1 確かな学 力	研究授業を3回以上行い授業改善を図る。また、長期休業中の学習活動を充実させる。	定期テスト前に学年ごとに3回実施。適切な評価の検証を継続していく。	A ⓐ C D	1 確かな学 力	昨年度に引き続き研究授業を3回以上行い授業改善を図る。また、長期休業中の学習活動を充実させる。		A B C D
2 豊かな心	毎日の朝読書を通して、物事を多面的に考え、想像力を養える指導を継続する。	多様な考え方に触れるためにも、丁寧な読書指導を継続していく。	A ⓐ C D	2 豊かな心	昨年度に引き続き毎日の読書を通して、物事を多角的に考え、想像力を養える指導をする。	想像力や他者を思いやす心を養う契機としての読書指導を継続していく。	A ⓐ C D	2 豊かな心	今年度も毎日の読書などを通して、物事を多角的に考え、想像力を養える指導をする。同時に、道徳の時間の充実を図る。		A B C D
3 健やかな体	自己の健康を管理し改善していこうとする取組を行う。	学校生活での関わりを明確にするとともに、食育の充実を検討する。	A ⓐ C D	3 健やかな体	教科や保健指導を通して自己の健康を管理し食育の充実の取組を進める。	教科指導や学校保健委員会での情報発信が寄与できた。	A ⓐ C D	3 健やかな体	昨年度に引き続き教科や保健指導を通して自己の健康を管理し食育の充実の取組を進める。		A B C D
4 教育課程 学習指導	・基礎基本の定着を図るための少人数指導の実施。・家庭学習の習慣化を推進する。	数学科の少人数指導は効果的であった。家庭学習の充実のために保護者との連携を深めていく。	A ⓐ C D	4 教育課程 学習指導	基礎基本の定着を図るため数学科の少人数指導を継続する。家庭学習の習慣化を更に推進する。	数学科の少人数指導は効果的であった。家庭学習の充実に課題が残った。	A ⓐ C D	4 教育課程 学習指導	基礎基本の定着を図るため数学科で一部習熟度別を取り入れながら少人数指導を行う。家庭学習の習慣化を推進する。		A B C D
5 児童生徒 指導	・教育相談日の充実と日常の声かけや相談活動の実施。・いじめについての実態把握と早期対応を学校として共有化する。	生徒との触れあえる時間の確保ができた。事案については各家庭の協力があり、迅速な対応ができた。	A ⓐ C D	5 児童生徒 指導	教育相談日の充実と日常の声かけや相談活動の実施。継続していじめについての実態把握と早期対応を学校として共有化する。	生徒との触れあえる時間の確保をさらに増やす必要がある。地域や家庭の協力が必須である。	A ⓐ C D	5 児童生徒 指導	教育相談日の充実と日常の声かけや相談活動の実施。継続していじめについての実態把握と早期対応を学校として共有化する。		A B C D
6 安全管理	防犯・防災に関する情報の発信に努め、年度初めの全校集会で全生徒に安全教育の指導を行う。	区役所や警察などと連携してさらに充実させたい。生徒会と連携した指導を継続していく。	A ⓐ C D	6 安全管理	防犯・防災に関する情報の発信に努め、区役所や警察などとも連携していく。生徒会と連携した指導を進める。	区役所や消防・警察と連携してさらに充実させたい。地域と連携した指導を継続していく。	A ⓐ C D	6 安全指導	防犯・防災に関する情報の発信に努め、区役所や警察などとも連携していく。生徒会と連携した指導を進める		A B C D
7 人材育成 組織運営	チームを中心としたOJTの充実。組織の効果的運営のため、毎日学年会(放課後)を実施する。	授業研究や事案対応などでのOJTが効果的であった。学年会での情報共有は効果的であった。	A ⓐ C D	7 人材育成 組織運営	チームを中心としたOJTを推進。組織の効果的運営のため、毎日学年会(放課後)を継続実施する。	毎日行われる学年会での情報共有は効果的であり、経験の浅い職員の研修になっている。	A ⓐ C D	7 人材育成 組織運営	昨年度に引き続きチームを中心としたOJTを推進。組織の効果的運営のため、毎日学年会(放課後)を継続実施する。		A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・チャレンジタイムを中心とした小中一貫教育は、アンケート結果からも中学生にとって自己有用感や自己肯定感を持たせることができた。今後も時代に合わせ見直ししながらも継続していく。 ・9年間を見通した小中一貫教育を支える児童・生徒指導や学習指導(小中一貫カリキュラム)を小中教職員で共有できている。 ・小中教職員の授業研修会については、方法等課題が残った。			小中一貫 教育推進 ブ ロ ッ ク 内 相 互 評 価 結 果	・小学校では両校とも廊下、教室等学習環境が整備されている。 ・昨年度と同様に9年間を見通した小中一貫教育を支える児童・生徒指導や学習指導(小中一貫カリキュラム)を小中教職員で共有できている。今年度は三校の学状を利用し、児童・生徒の学力や生活状況を把握したうえで「B基準に到達できていない生徒への授業内支援」を小学校、中学校ともに意識して授業に取り組んでいる。その取組を小中授業研修会で検証できた。			小中一貫 教 育 推 進 ブ ロ ッ ク 内 相 互 評 価 結 果			
学校関係者 評価結果	・小中の連携が図られている。また、いじめに対する学校の取組も評価できる。今後ともいじめに対して学校の取組を地域としても応援していくという評価をいただきました。			学校関係者 評 価 結 果	道徳教育の充実、児童・生徒の規範意識の向上を学校に期待している。また、地域清掃や地域の活動への参加など中学生のボランティア活動を積極的に進めていることやいろいろな場面での相談活動の取組については高い評価をいただきました。			学校関係者 評 価 結 果			
評価結果に 対する 学校の見解	・今後とも地域、家庭と連携を取りながら学区の児童・生徒の健全育成に努めていくとともに、現在の学校の取組に対して高い評価をいただいていることから現在の取組を継続していこうと考えている。			評価結果に 対 す る 学 校 の 見 解	ご指摘いただいた児童・生徒の規範意識の向上やSNSなども含めた道徳教育の充実を今後とも推進していくとともに、教職員が生徒と向き合う時間を確保し、日々の相談活動の取組も継続していこうと考えている。			評価結果に 対 す る 学 校 の 見 解			
学校経営 中期目標 達成状況	「わかる授業」「学ぶ喜びを実感できる授業」をめざし、対象者を明確にした研究ができた。その成果を次年度に活かし学力向上につなげたい。生徒の自尊感情を育成するために相談活動や生活アンケートなど生徒の実態を把握できた。次年度は道徳教育の充実を図っていききたい。地域行事への参加を継続。			学校経営 中 期 目 標 達 成 状 況	「わかる授業」「学ぶ喜びを実感できる授業」をめざし、学力学習調査をもとに具体的な研究に取り組めた。業務を見直して、子どもと向き合う時間を増やせた。道徳授業の公開を実施。			学校経営 中 期 目 標 達 成 状 況			

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要